

2026年 第32週8月3日～8月9日

西多摩保健所感染症週報

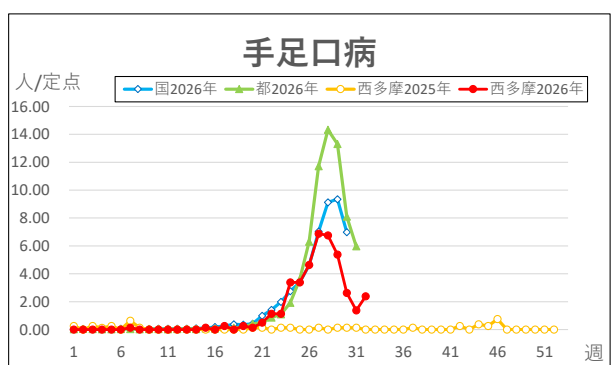
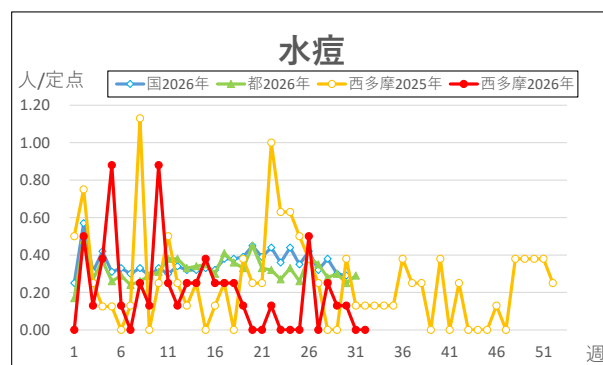
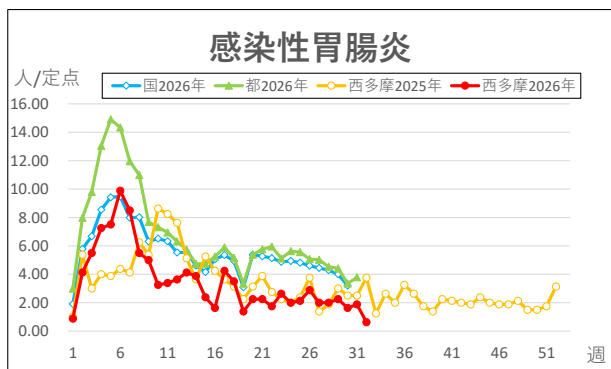
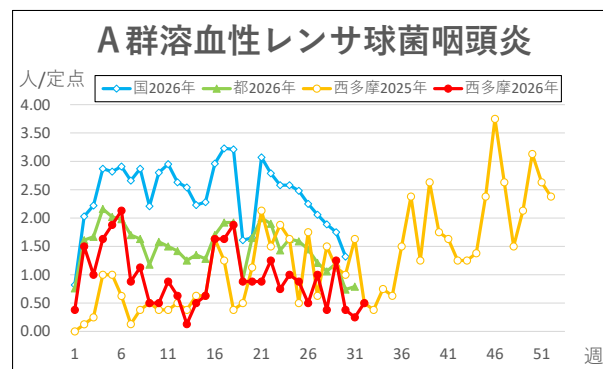
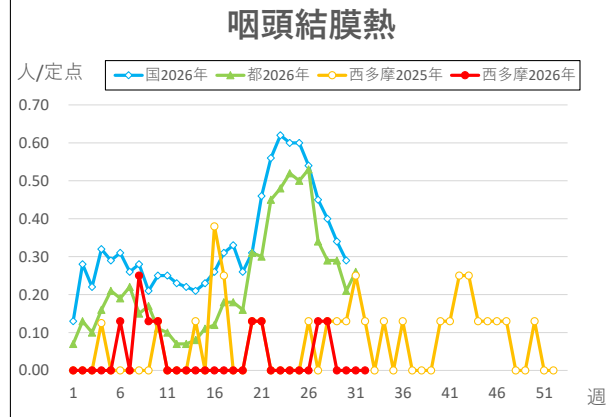
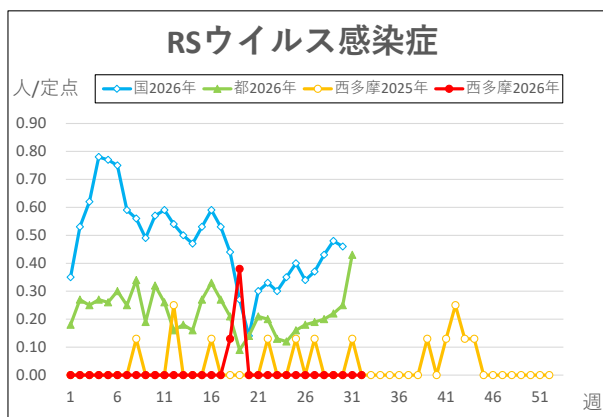
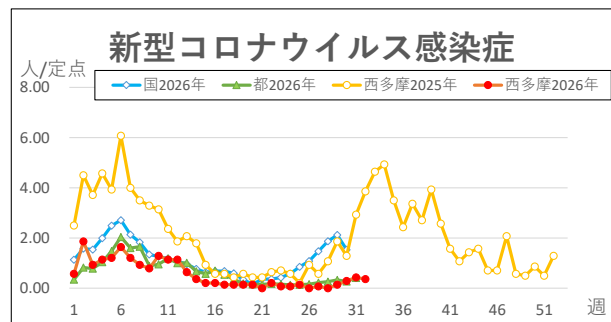
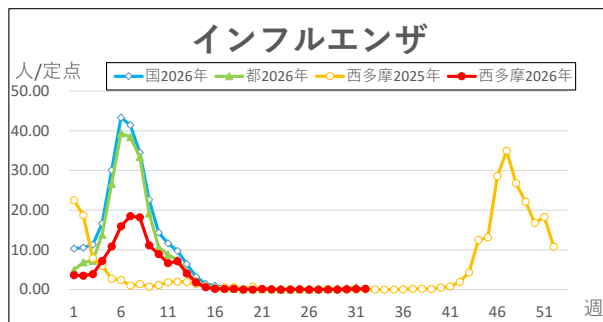
東京都西多摩保健所
Tel 0428-22-6141



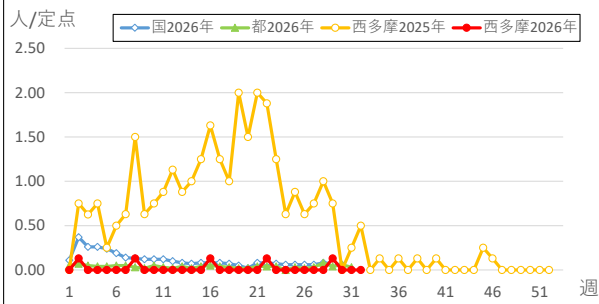
管内の発生動向及び定点把握対象疾患 () は内訳又は前週値

- 全数届出の疾患は、結核1件(80代女性)とA型肝炎1件(30代男性)の報告がありました。
 - 定点報告では、インフルエンザ0.21(0.14)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎0.50(0.25)、手足口病2.38(1.38)が増加しています。
 - 手足口病は今週も保育施設を中心に流行しており、石鹸と流水でこまめな手洗いが予防に効果的です。
- ※今週の週報は国のデータは2週遅れ、都のデータは1週遅れで掲載しています。

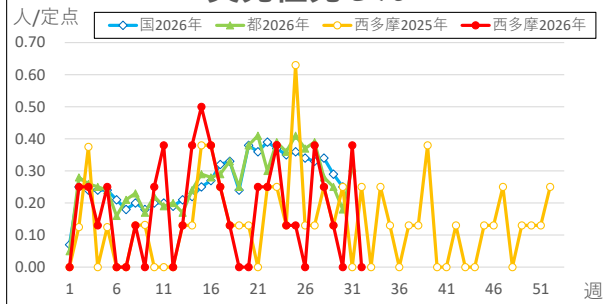
- *管内の感染症集団発生状況* () は内訳
- 今週はインフルエンザ、新型コロナ、感染性胃腸炎等の集団発生はありませんでした。



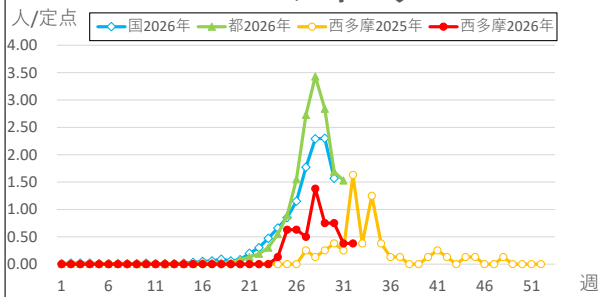
伝染性紅斑



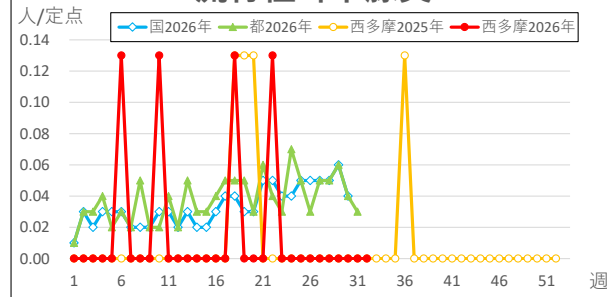
突発性発しん



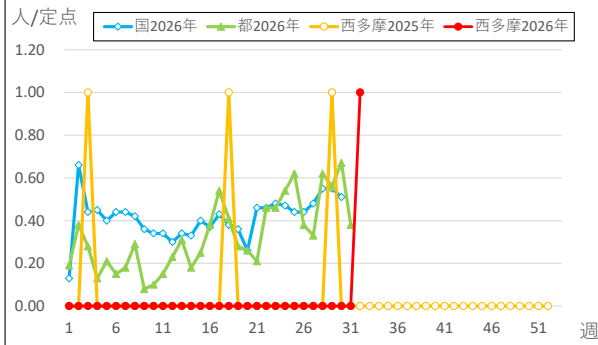
ヘルパンギーナ



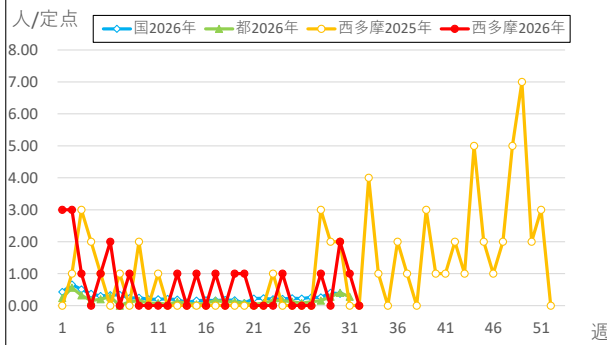
流行性耳下腺炎



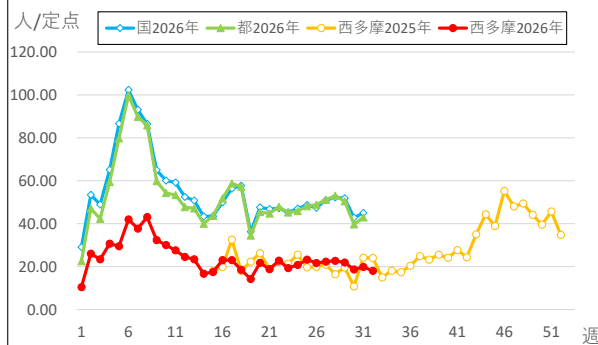
流行性角結膜炎



マイコプラズマ肺炎



急性呼吸器感染症（ARI）



* 今週のトピックス *

～角膜感染症～

眼の角膜は、病原体が感染すると、時に重症化することがあります。特にコンタクトレンズを装用している場合、正しく管理し、清潔に保っていますでしょうか。

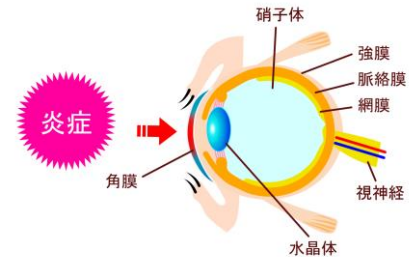
どのような病気ですか？

角膜は厚さ約 0.5 mm の透明な組織で、俗に「黒目」と呼ばれています。

その角膜に病原性を持った微生物が付着し繁殖した状態を角膜感染症と呼びます。

角膜感染症を起こす主な微生物として、細菌・真菌（病原性を有するカビ）

- ・アカントアメーバ・ヘルペスウイルスなどがあります。



どのように感染しますか？

通常、角膜の表面は角膜上皮という組織で覆われており、簡単には微生物が進入できないような構造になっています。しかし、何らかの原因で角膜上皮に傷ができてしまうと微生物が付着し繁殖しやすくなります。

どのように治療・予防できますか？

細菌性の場合、抗菌薬点眼を行います。

真菌性の場合は抗真菌薬点眼を行います。

ヘルペスウイルスなどウイルス性の場合、必要に応じて抗ウイルス薬点眼を行います。

アカントアメーバ性の場合も抗菌薬・抗真菌薬点眼を行います、難治性です。

角膜感染症は、最悪の場合失明することもあります。

予防としては、以下の内容が挙げられます。

- ・コンタクトレンズを清潔に保つ

レンズを汚染させないことはもちろんのことですが、水道水での洗浄も推奨されません（水道水内のアメーバの付着の危険があるため）。必ずコンタクトレンズ用の洗浄液を用いて、適切な方法で洗浄しましょう。

使用期間（1day、2week など）を超えた装用や、レンズを装用したまま就寝することも避けましょう。

- ・不用意に目を擦らない

手指に付着した病原体が眼に入る危険があります。

たとえ清潔な手指であっても、角膜に傷がつくことで、病原体の侵入口となってしまいます。

日々の手指衛生の励行はもちろん、できるだけ眼を触らないようにしましょう。



日本眼科学会 角膜感染症

<https://www.nichigan.or.jp/public/disease/name.html?pdid=17>

直近8週間の西多摩保健所管内定点医療機関報告数（定点当たり）

	25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	1週目からの 累計
インフルエンザ	1 (0.07)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.07)	2 (0.14)	3 (0.21)	1,726
新型コロナウイルス感染症	2 (0.14)	0 (0.00)	1 (0.07)	0 (0.00)	2 (0.14)	4 (0.29)	6 (0.43)	5 (0.36)	247
RSウイルス感染症	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	4
咽頭結膜熱	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	1 (0.13)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7 (0.88)	4 (0.50)	8 (1.00)	3 (0.38)	10 (1.25)	3 (0.38)	2 (0.25)	4 (0.50)	241
感染性胃腸炎	17 (2.13)	23 (2.88)	16 (2.00)	16 (2.00)	18 (2.25)	13 (1.63)	15 (1.88)	5 (0.63)	894
水痘（みずぼうそう）	0 (0.00)	4 (0.50)	0 (0.00)	2 (0.25)	1 (0.13)	1 (0.13)	0 (0.00)	0 (0.00)	52
手足口病	27 (3.38)	37 (4.63)	55 (6.88)	54 (6.75)	43 (5.38)	21 (2.63)	11 (1.38)	19 (2.38)	323
伝染性紅斑	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	5
突発性発しん	1 (0.13)	0 (0.00)	3 (0.38)	2 (0.25)	1 (0.13)	0 (0.00)	3 (0.38)	0 (0.00)	45
ヘルパンギーナ	5 (0.63)	5 (0.63)	4 (0.50)	11 (1.38)	6 (0.75)	6 (0.75)	3 (0.38)	3 (0.38)	44
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	4
流行性角結膜炎	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.00)	1
マイコプラズマ肺炎	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.00)	0 (0.00)	2 (2.00)	1 (1.00)	0 (0.00)	21
急性呼吸器感染症（ARI）	326 (23.29)	303 (21.64)	312 (22.29)	318 (22.71)	298 (21.29)	261 (18.64)	278 (19.86)	252 (18.00)	10,658

○グラフは、5類定点把握対象疾患についての推移を表しています。グラフ縦軸の目盛は定点あたりの患者報告数です。
 ○管内定点医療機関数は、小児科定点8、内科定点6、眼科定点1、基幹定点1となっています。
 ○毎週の患者報告数は、管内の定点医療機関から毎週月曜日に報告を受け、週報として木曜日に発行いたします。
 ○データの出典元は、下記のとおりです。国及び都のデータは1週間遅れで掲載しております。
 〈出典〉東京都、西多摩保健所のデータ：東京都感染症情報センター <https://idsc.tniph.metro.tokyo.lg.jp/>
 国のデータ：国立健康危機管理研究機構（JIHS） <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>